



雪の下でもしっかり命を育てていました フクジュソウ (3月9日)

慧 光

金光寺寺報
第153号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

帰ってゆくべき世界は 今**あ**会う**光**によって **あ**知ら**さ**れる (浅井成海)

三月は春彼岸の季節です。
『観無量寿経』に、阿弥陀さまを深い瞑想の中で感じ取る「観想」が説かれ、その第一に「日想観」が説かれています。
阿弥陀さまを観想してそのはたらきに出会い、悟りに到ろうとするのに、まず「私どもに受けとめられるよう、悟りの世界を西方浄土と方位を示して、お浄土と阿弥陀仏のすがたを立てられた」とされて、その阿弥陀仏と阿弥陀仏の世界を観想する道が説かれます。その第一が日想観です。阿弥陀仏の世界「浄土」を観ずるのに、西に沈みつつある赤々と照り輝く夕日を観ずる、目を閉じてもありありと夕陽が見られるように観想する。そこに西方十億の世界を超えたところのお浄土のすがたをいただくというわけです。そして、もっ

とも適切な「日想観」は、真東から日が昇り真西に沈む、その夕陽を観想するとされ、春分、秋分の日が特別な「観想」のときとされるのです。
夕陽を拝して阿弥陀さまの光明に抱かれていることを観ずるところに、夕陽を拝する意味があるといえるでしょうが、さらに、夕陽がなくても、お念仏の中に阿弥陀さまの智慧と慈悲のはたらき、その光明に抱かれていることを気づかされていくことになるでしょう。今月のことばの「今会う光によって」とは、この阿弥陀さまの無量なる光明に出会うということで、阿弥陀さまのご本願のはたらきに出会い、慶びと報謝のお念仏が口元で出てくるとき、「帰るべき世界」であるお浄土が知らされるということになります。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

金光寺よろずコーナー

今、私の寝る前の愛読書は推理小説と「浄土真宗必携 み教えと歩む」(以下、必携)です。
この必携は浄土真宗必携編集委員会編集・本願寺出版社発行によるもので、定価は630円(増税前)。そう難しくない内容になっています。
欲しい方は金光寺までご一報を。



下記のとおり、当山ご門徒がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2014年 2月20日寂 満85歳
道の上 石井康雄様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
3月9日現在 アクセス数 73,709人

お詫びを申し上げます。先月号で雪のことにふれた後、大雪が襲来しました。寺報をお読みいただいた方々から「あげな」と冗談交じりのお叱りをいただきました。先月は動物にもじつて「住職ひとりごと」を書いたのですが、いずれも誤りでした。今は「亀」状態です。首を引つめています。しかし、ほとぼりがさめたら、また、首を出して失敗を繰り返すことでしょうか。その時はまたあたたいご指導をください。娘の受験で久しぶりに新幹線に乗りました。私がよく利用していた頃は「ひかり・みずほ」の時代でした。今は「みずほ・さくら」と名称が変わり、あわせてスピードも速いものを利用するようになりました。熊本から新大阪まで三時間半で行けるので、私の頃は博多から新大阪まで四時間ほどかかっていました。でも、睡眠をとる乗り物だ！新幹線は睡眠時間

仏教用語豆辞典

三蔵法師

「なら・シルクロード博」が開催されました。
三蔵法師といえ、あの『西遊記』を思い出す人が多いことでしょう。孫悟空・沙悟浄・猪八戒という弟子たちに助けられながら、中国から天竺(インド)

へ、お経を求めて旅をするお話です。
お釈迦さまの説かれた教法をまとめたものを『法蔵』といい、お釈迦さまが定められた戒律をまとめたものを『律蔵』。経と律に対して弟子たちが注釈したものを『論蔵』といいますが、これが三蔵です。いわば、仏教聖典のすべてというわけです。
この三蔵に精通し、経典を中国語に翻訳した僧を、三蔵法師と呼びました。だから、三蔵法師は多くおられたことになりま

す。
その中の一人、玄奘(げんじょう)という名の三蔵法師は、唐の時代の学僧で、経典を求めてシルクロードを経てインドに入り、帰国後、多くの経典を翻訳しました。そしてその旅行記『大唐西域記』は、当時のインドや中央アジアに関する貴重な資料となったのです。
『西遊記』は、これをモデルにして作られたのです。
(本願寺出版社発行
辻本敬順著
仏教用語豆辞典一〇〇)

住職ひとりごと

パート1から

「願」・「行」

弥生三月とは言え、まだまだ朝夕は寒いですね。でも、梅や桃のつぼみがふくらみ始めました。春はもつすぐそこです。

私ことですが、娘が高校を卒業しました。そして、一月から始まった大学入試。センター試験を受けて国立大学の最終的な志望校を決め、個別学力前期(二月二十五日試験日)と後期(三月十二日)を受験することになり、まず、前期試験を受けました。合格発表は今日六日。幸いにして合格することができましたので、後期試験は受けな

ど追い込まれた状況を目にしてきたので、本人はもちろん私たちもともに喜びました。娘が望んだ職業は「薬剤師」です。振り返ると、中学生の恩師に冗談半分で薬剤師をすすめられ、薬剤師になりたいという「願」いを起こしたのが始まりです。

「願」いをはかなえるためには努力(勉強・「行」)をしなればなりません。その努力(勉強・「行」)の結果により、大学合格という「願」いが成就するかどうかが決まります。合格という「果」を得ることができましたので、それなりの努力はしていたのでしよう。娘の受験で、改めて阿弥陀さまのお慈悲のありがたさを思い起こしました。

阿弥陀さまは国王の地位を捨て菩薩となり、「法蔵」と名のられました。その菩薩のときすべての人々を救うための方法を五劫という長い時間をかけて考えぬかれ、四十八の願い(「願」)としてあらわされました。

そして、その「願」を完成成就するため、兆載永劫という長い時間ご修行ください、成仏(悟りを開く)して、阿弥陀如来となられました。と同時に、「極楽」というお浄土と、南無阿弥陀仏のお念仏のはたらきにより私たちを救う、救いの法を完成されたのです。すべての人を信心と念仏によって平等に救



う本願こそがその救いの法であり、浄土真宗の教えの中心であり根本です。娘は自分で「願」をたて、勉強という「行」をつみ、合格という「果」を得ました。

しかし、私たちが迷いの世界から救われるという「果」は、すべて、阿弥陀さまが成仏される前、法蔵菩薩のときにたてられた「願」と、私たちに代わり積まれた「行」によるものです。私たちは阿弥陀さまの一人ばたらき、阿弥陀さまが私たちに振り向けてくださる本願他力の回向によって、生きている今(現生)お浄土へ救われていくことが約束された仲間にならせていただきます。そして、娑婆の縁尽きたとき、お浄土へ救われて、さとのりの智慧をいただきます。

すべては願も行をそなわった名号南無阿弥陀仏の救いであり阿弥陀さまの智慧と慈悲のためものです。私たちを救うその「願」と「行」があればこそ念仏、無礙の一道の歩みです。

法語の世界

〈原文〉

敵の陣に火をともし、火にてなきとは思はず。いかなる人なりとも、御ことばのとほりを申し、御詞をよみまうさば、信仰し、承るべきことなりと。

(蓮如上人御一代記聞書 百六十五)

〈現代語訳〉

「夜、敵陣にともされている火を見て、あれは火ではないと思うものはいない。それと同じように、どんな人が申したとしても、蓮如上人のお言葉をその通りに話し、上人の書かれたものをそのまま読んで聞かせるのであれば、それは上人のお言葉であると仰ぎ、承るべきである」と仰せになりました。

二〇一四年春季彼岸会法要のお知らせ

期日	場所	勤行	講師	その他
三月二十一日 午前九時三十分	金光寺本堂	正信念仏偈(草譜)・六首引き	下野浄光寺住職 寺哲昭 師	お参りの際は、式章・念珠・お経本をご持参ください。彼岸会法要は仏教婦人会の例会になっています。仏教婦人会会員の皆さんはご参詣ください。会員以外の皆さんのご参詣もお待ちしております。法要終了後は、仏教婦人会の総会で

仏事お休みのお知らせ

下記の期日は、緊急(葬儀)を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 3月
 - 11日~13日 私用(徳島行)
 - 21日 彼岸会法要
 - 25日 宮崎出張
 - 28日 私用(延岡行)
- 4月
 - 1日~5日 私用
- 6月
 - 5日~8日 上洛
 - 28日午後 女性の集い前日準備
 - 29日 高千穂組仏教女性の集い